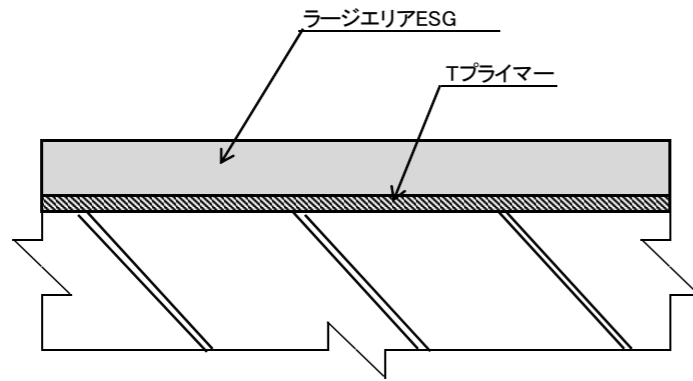


## ESG施工要領書



施工手順	施工内容	使用機材・使用材料
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">下地の確認</div> <p style="text-align: center;">↓</p>	<p>◎既存下地が施工に適しているか確認し、必要に応じて接着試験を実施する。</p> <p><b>【チェックポイント】</b></p> <p>◆下地からの水の上昇はないか。タイルの場合殆ど透水性は無いが、石（一部タイル）は要注意。 →水分の上昇が有る場合は遮水処理が必要です。（別途お問い合わせ下さい。）</p> <p>◆油分やひどい汚れはないか。 →必要に応じて、ダイヤモンドカップなどで研削して除去します。</p> <p>◆塗料・ワックス・シールなど、既存で施工されているものはないか。 →されている場合は基本的に、塗料・ワックス・シールの粘着残りまで完全に除去する事を推奨します。</p> <p>◆既存下地のひび割れや、破損はないか。 →有る場合、補修を検討して下さい。または、ひび割れ箇所を避けての材料塗布を推奨します。塗り被せる事も可能ですが、その場合ひび割れ箇所からの塗膜の欠けや浮きが発生する可能性があります。</p> <p>※適切な下地処理が必要です。下地処理を怠れば接着不良や硬化不良の原因になります。</p> <p>※下地種類・状況や施工環境は現場ごとに様々です。施工要領書だけでなく臨機応変な対応が必要です。</p> <p>※多くの場合、トータル施工時間の7～8割程度は下地処理に費やされます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遮水材（専用）</li> <li>・短毛ローラー</li> <li>・受け皿（トレイ）</li>   <li>・研削機</li> <li>・集塵機</li> <li>・他</li>   <li>・スクレーパー</li> <li>・研削機</li> <li>・集塵機</li> <li>・ワックス剥離剤</li> <li>・他</li> </ul>

施工手順	施工内容	使用機材・使用材料
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">特殊処理</div> <p style="text-align: center;">↓</p>	<p>◎左記【チェックポイント】に挙げたような特殊処理が必要な場合は適切な処理をして下さい。</p> <p>※遮水材に関しては、別途施工要領書を設けていますのでお問い合わせ下さい。</p> <p>※研削機を使用した場合、下地がかなり粗された状態になります。ESGは透明で下地状態が透けますので、この場合はESカラーの施工をお勧めします。</p> <p>※シール・ワックス等の既存材料を除去する際に、溶剤など使用した場合はその成分が残らないように洗浄・除去して下さい。</p>	<p>※ESカラー（推奨）</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">清掃</div> <p style="text-align: center;">↓</p>	<p>◎施工面に残ったゴミや汚れ、油分、特殊処理で発生した粉塵や溶剤成分などを除去して施工に適した状態にします。</p> <p>・特殊処理までは必要ないが、汚れているという場合はポリッシャーやデッキブラシで十分に洗浄をし、浮き上がった汚れや洗剤成分が残らないように十分にすすぎます。 排水の関係上、すすぎが十分に出来ない場合は完全に拭き取って下さい。</p> <p>※洗浄は洗剤を使用せずに、強アルカリイオン電解水の使用を推奨します。電解水だけでは落とせない場合は電解水と洗剤を併せて使用して下さい。 洗剤の成分が残ると接着不良の原因になりますので、洗剤成分をしっかりと洗い流しやすくするため、必要に応じて水で適度に薄めるなどの対応をして下さい。</p> <p>・洗浄後、完全に乾燥させます。 時間制限があり、火気使用可であればバーナーで強制乾燥をします。※熱し過ぎの下地破損注意。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・清掃道具</li>   <li>・ポリッシャー</li> <li>・デッキブラシ</li> <li>・ホース</li> <li>・他洗浄具一式</li> <li>・強アルカリ電解水（推奨）</li> <li>・洗剤</li> <li>・水吸引用バキューム</li> <li>・かっぱぎ（水切りワイパー）</li>   <li>・送風機</li> <li>・バーナー</li> <li>※使用可・不可要確認</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">下地処理</div> <p style="text-align: center;">↓</p>	<p>◎研磨</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サンドペーパー（＃100以下）や研磨パットを使用し施工部表面を目粗しします。（オービタルサンダーや研磨パット装着ポリッシャーなどの機材を使用すると効果的です。）</li> </ul> <p>※目粗し不足は接着力低下に繋がりますので線傷が付く程度に行ってください。</p> <p>※プライマー塗布で線傷程度は殆ど目立たなくなりますが、下地によって目立つ場合もあります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サンドペーパー</li> <li>・研磨パット</li> <li>・他</li> </ul>

施工手順	施工内容	使用機材・使用材料
脱脂	<p>◎アルコール脱脂</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>施工面に残った汚れ/粉塵/油分/ホコリをアルコールを染み込ませたウエスなどで拭き取り、施工面を触っても殆ど何も付かないくらいに仕上げます。</li> </ul> <p>※目粗しで出た粉塵やパットの破片が多い場合は脱脂前に集塵機で除去して下さい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アルコール (エタノール)</li> <li>ウエス</li> </ul> <p>※ウエス・アルコールは殆どの工程で使用する可能性があります。下地状況によっては大量に使用する場合がありますのである程度余裕をもった量を準備して下さい。</p>
↓		
マスキング・養生	<p>◎マスキング・養生の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>施工部分以外への材料の付着を防ぐため、床面・壁面に必要に応じて設置します。</li> </ul> <p>※材料塗布の際、ローラーの遠心力で材料が散ることがあるので、新設のガラスや壁には特にご注意下さい。</p> <p>※施工環境次第では、下地処理や洗浄工程でも必要に応じて養生をして下さい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>マスキングテープ</li> <li>養生テープ</li> <li>マスカー</li> </ul>
↓		
プライマー塗布	<p>◎施工場所・下地に応じた専用プライマーをウエスやタイルカーペット等に染み込ませて、擦り込むように塗り広げてください。</p> <p>※ホットプレートに油をひく要領で、薄塗で大丈夫ですが、必ず全面にいきわたるよう丁寧に塗布して下さい。</p> <p>プライマーが塗られた場所は、濡れ色になりますので、塗布したかどうか確認できます。</p> <p>※プライマーを塗布した場所は5~60分以内にラージエリアを塗布して下さい。</p> <p>※注意事項※</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>プライマーは必ず一旦ウエスやタイルカーペットにってから塗布して下さい。直接かけたりしますと白濁などの原因となります。</li> <li>プライマーは粘りの液体ですので、ウエスにとる際は出しすぎにご注意ください。</li> <li>プライマーは空気中の水分と反応してしまいますのでボトルのキャップは施工中もその都度閉め、開けたままにはしないでください。</li> <li>環境、対象材質、表面状態により接着力が変わってきますので小さな場所でテスト施工を行って性能確認の上でご使用ください。</li> <li>プライマーが残った場合は、よく口の部分を拭き取ってから蓋をして保管してください。拭き取らなかった場合、次回使用時蓋が手で開けられない場合があります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>専用プライマー</li> <li>*Tプライマー (無溶剤万能) 6-10㎡施工可能</li> <li>*MSプライマー (金属下地用) 6-10㎡施工可能</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>ウエス</li> <li>タイルカーペット (使いやすい大きさにカットしたもの)</li> </ul>
↓		

材料準備	<p>◎混合前にA剤を一度よくかき混ぜた後、A剤とB剤を100:50の割合で混合します。別途カップを用意し、計量混合してください。</p> <p><b>混合した材料は20分程度で塗れなくなります。</b></p> <p>A100 g B50 g 混合した場合、約1㎡施工できる目安となります。1kg(A+B)で約6㎡施工可能です。</p> <p><b>慣れてない方はA100 g B50 g の分量から施工して下さい。(10分以内に塗りきれれる量だけ混合して下さい)</b></p> <p>※必ず慣れてから1度の混合重量を増やして下さい。</p> <p>※追加で骨材を増量したい場合はA剤とB剤を混合した後、混合重量の20%迄を目安に追加し、50回程度混ぜ、均一に混ざるよう攪拌してください。</p> <p>タイル塗布がプルがついている場合は通常仕上げの塗り見本となっております。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ラージエリア ESG (A材+B材)</li> <li>計量機 1g単位の電子計量機を推奨します。</li> <li>材料混合カップ</li> <li>混ぜ棒</li> <li>受け皿 (パレット)</li> <li>砂骨ローラー (極細目)</li> </ul>
↓		
材料塗布	<p>・カップで計量した混合材料を、塗料などで使用する受け皿等に材料を移し、砂骨ローラー(極細目)で塗りつけるように塗り広げて下さい。</p> <p>※1箇所大量に材料を落とすとムラになる可能性がありますので 少しずつ広げて塗りつけて下さい。</p> <p><b>※塗料と同じ感覚の塗り方とは異なります。</b></p> <p><b>※冬場は材料が硬くなり、材料がのびにくくなりますので、混合前に材料を暖房のきいた室内や車内で人肌程度に温めておく(20-30℃)ようにして下さい。非常に塗りやすくなります。</b></p> <p>【塗り方のコツ】</p> <p>◎砂骨ローラーに材料を含ませ (表面にはべたつかない) 50cm角内を目安に軽くローラーを転がし、材料を軽く塗りつけていきます。</p> <p>全体にまんべんなく軽く材料を塗布させた後、徐々に力をいれていき全面に塗りつけていきます。</p> <p>スポンジ部分から材料を出していくイメージで材料を下地に塗りつけて下さい。最初に4割塗布してから徐々に力を入れて残り6割塗布するイメージで仕上げるときれいにムラなく仕上げる事ができます。</p> <p>下地に付着した材料は、タコタコとしごく感じで均一に仕上げていって下さい。</p> <p>◎乾燥硬化は温度と湿度により異なりますが、通常<b>夏場2時間 冬場3時間</b>で通常歩行は可能です。</p> <p>・送風機を使えば乾燥が促進されます。(2-3割程度)</p>	<p>※材料混合カップ 受け皿 砂骨ローラー 以上は複数用意して下さい。付着したラージエリアが硬化しますので定期的に交換する必要があります。</p>
↓		
乾燥硬化・完成		<ul style="list-style-type: none"> <li>送風機</li> </ul>

施工マニュアルに基づいた施工であっても、施工に関しては一切の責任を負いません。施工に不安を感じる場合は当社または、認定施工代理店での責任施工をお勧めします。